

メモリーツリーとは何か？

ここでは、新しい勉強法として、メモリーツリーを紹介しよう。メモリーツリーは『ドラゴン桜』第7巻に掲載された勉強法で、学習内容を相互に関連付けながら木の形に描いていくことで、単純な暗記よりも覚えやすくするというものである。ある大きな事柄を幹として、そこから関連する情報を枝のように広げて、一つの大きな木に仕上げていく、というのが基本である。



『ドラゴン桜』三田紀房著，講談社

単語などだけを覚えようとしても、なかなか難しい。しかし、イラストや語呂合わせなどを書き込みながら、単語の関連性を意識してメモリーツリーを作れば、記憶に残りやすくなるのである。メモリーツリーが実際にどんなものなのかわかるように、世界史の学習事項のメモリーツリーのサンプル画像を掲載した。ぜひ参考にしてほしい。

メモリーツリー作成のポイント

さらに、実際にメモリーツリーを作るにあたってのポイントを以下にまとめたので、こちらも参考にしてみてくださいれば幸いです。

①自由に作ろう！

メモリーツリーは、自分で単語や歴史の流れを覚えるために作るもの。他の人に見せるわけではないのだから、綺麗に、「まとも」に作る必要はない。木の形がいびつになっても、描いたイラストが下手でも構わない。「こうしなくてははいけない」と思って作ると、作ることそのものが目的になってしまい、記憶には全く残らない、ということにもなりかねない。サンプルはあくまで参考と割り切り、自分の覚えやすいメモリーツリーを作っていこう。

②単語のまとまりを意識しよう！

一つのテーマにまつわる単語でも、制度に関するもの、文化に関するもの、人物名など、さまざまなカテゴリがある。大きな幹から細かな単語を枝分かれさせていくとき、同じカテゴリの単語を近くに配置していくことで、記憶に残りやすくなる。

もちろん、人物名とその人物が行ったことを、近くに配置していくのもよい（例：フランクリン＝ローズヴェルトとニューディール政策など）。とにかく、単語同士のまとまりを意識するのが大事である。

③記憶の「とっかかり」を作ろう！

普段の生活で、何か思い出せないことがあるとき、その話をしたとき何を食べていたかとか、どんなテレビ番組を見ていたかといったような、あまり関係のないようなことから思い出すことはないだろうか。

メモリーツリーを作るとき、学習事項のまわりに、語呂合わせやダジャレ、イラストなどを、記憶の「とっかかり」として入れてみよう。そうすれば、まわりの単語を思い出せないとき、「あのダジャレの近くにあったあの単語」といったように、イモヅル式に思い出せることがある。

番外「くだらない」ことをどんどん取り入れよう！

①にもあるように、メモリーツリーは自分で単語や歴史の流れを覚えるために作るものだ。先生に提出する授業ノートではないのだから、自分の興味・関心を素直に取り入れ、くだらないと思うことでも、どんどん書き込んでいこう。たとえば、歴史上の人物を演じた好きな俳優・女優の名前や、漫画化された人物を真似たイラスト、突っ込みを入れるのも嫌になるようなダジャレなど、何でもよい。楽しんで書いたほうが、記憶に残りやすいはずである。